

奈良市まちづくり市民会議（第6回）概要記録

■日時：平成22年2月5日（金）午後7時00分～午後9時00分

■場所：奈良市役所 中央棟6階 正庁

■プログラム：

1. 開会
2. グループワーク（分科会ごと）
 - (1) 『奈良市のテーマ別将来都市像づくり（4）』
 - (2) 各分科会の代表の選出（第5回会議で選出していない分科会のみ）
3. 各分科会の「テーマ別将来像」発表
4. 「奈良市全体の将来像」を考えるためのキーワードについて（事務局説明）
5. 市民会議代表・副代表の選出について（事務局説明）
6. 閉会

■会議資料：

- ①「奈良市全体の将来像」を考えるためのキーワードについて（パワーポイント資料）
- ②奈良市全体の将来像記入用紙
- ③奈良市まちづくり市民会議（第6回）のふりかえり
- ④参考資料

＜市民政策アドバイザーへのアンケート（平成21年7月実施）＞

「これからの奈良市がめざすべき姿（都市の将来像について）」集計結果

※①～④は受付時に配布

■出席者：

【市民公募委員】45名（欠席7名）

赤尾 隆、阿部 智子、井上 雅由、榎本 正範、岡本 胤継、奥村 麻希子、北 良夫、北浦 由香、北野 剛人、木村 宥子、熊野 磯一、小島 道子、小西 完治、笹部 和男、佐藤 正幸、サマン ペレラ、澤崎 嘉造、四反田 喬典、新堂 順規、高松 典正、田北 ますみ、武村 俊宏、多田 充朗、田中 保夫、谷 幸三、反田 博俊、中川 徹、中西 輝、橋本 光男、長谷川 庸司、畑中 忠司、濱 惠介、春田 稔、本間 香貴、松永 洋介、松森 重博、宮本 郁江、村田 勝彦、元島 満義、森口 哲也、山本 素世、山本 善徳、吉田 俊夫、寮 美千子、渡邊 新一

【事務局】6名（企画政策課 課長 吉村 武富、主幹 田中 利也、主幹 奥田 喜司、主任 木村 和弘、引野 あずみ、山岸 公彦）

【ファシリテーター】6名（山崎 亮、西上 ありさ、醍醐 孝典、六本木 晃夫、岡田 実成、桐山 法子）

■傍聴者：0名



■会議の概要：

1. 開会

司会（企画政策課 吉村）より説明。

○委員の出欠について：開催時点では、委員 52 名中 39 名が出席。

2. グループワーク（分科会ごと）

（1）『奈良市のテーマ別将来都市像づくり（3）』

【グループワーク】

・前回までの話し合いを踏まえながら、テーマ別将来像を仕上げる。

グループファシリテーターが、必要に応じて話し合いの概要を模造紙等に整理。

⇒ <グループワークの記録>参照。

（2）各分科会の代表の選出（第5回会議で選出していない分科会のみ）

【グループワーク】

・第5回会議で代表を選出していない分科会については、分科会内で話し合い、分科会の代表を選出。

3. 各分科会の「テーマ別将来像」発表

各分科会の「テーマ別将来像」発表の前に、事務局（企画政策課 引野）が、今回のグループワークで決定した、第1分科会・第2分科会の代表を紹介。

【第1分科会】代表：井上 雅由

【第2分科会】代表：澤崎 嘉造

各分科会の「テーマ別将来像」発表は、ファシリテーター（西上）が進行。

○各分科会の発表：5分間。

（4分経過時にベル1回、5分経過時（発表終了時）にベル2回で合図。）

<各分科会の発表の概要>

第1分科会発表

本分科会では、テーマ別将来像を「いつまでも子や孫が笑顔で暮らせるまち」としました。

事務局からは「生きやすいまちづくり」というテーマをいただきましたが、このテーマを実現するには、まず平和が大切ではないかという意見が出ました。平和にしておくためには、自ら行動していく必要があるという意見も出ました。また、命を大切に作るまちでなければならないという意見も出ました。このような意見を踏まえ、「いつまでも子や孫が笑顔で暮らせるまち」というテーマ別将来像を設定しました。

皆が幸せになるには、原則として自己責任によるものです。自分で考え、自分の力で幸せになっていくことが基本になると思います。しかしそのとき、弱者の方、そのようにしたいけれども、自分の力だけではできない方がいます。そのような方を代表するのは、子や孫ではないでしょうか。そのような方々が、いつまでも、つまり年をとっても、幸せに暮らせるよう、「いつまでも子や孫が笑顔で暮らせるまち」という将

来像にしました。

また、この将来像を実現するために、「平和」、「市民自らが行動する」、「命を大切に
する」という3つの柱を掲げました。

まず、「命を大切にする」という点については、医療費・教育費を無料にしてはどう
かという提案もございました。

「平和」については、奈良市だけではなく、奈良市から世界に向け、平和を発信し、
ネットワークを築ければよいという意見が出ました。

「市民自らが行動する」ということは、先ほどご説明さしあげた、自己責任という意
味もごさいますが、自分のことだけを考えるのではなく、人も幸せでなければ、最終
的には自分も幸せではないのではないかという意見があり、このような考え方も含め、
自らが行動することが大切ではないかと思っています。

ある委員は、あったかい布団であったかいご飯が食べられることが幸せであり、そ
れ以上の幸せを望むならば、個々が努力して幸せになればよいという意見に象徴され
ると思います。

「いつまでも子や孫が笑顔で暮らせるまち」は、自分1人が幸せであるだけではなく、
皆も将来にわたって幸せなまちにしたいという思いが込められています。そのために
は、市や県、国が悪いと言うのではなく、市民自らが行動するまちにしていく必要が
あります。行政と市民が対立するのではなく、連携して、考え、実行していくことが
大切だと思います。

最後に、分科会のなかであがった提案ですが、このようなまちづくり市民会議を是
非存続させて、このような組織を通じて、各事業に市民が参加できるような仕組みが
構築されればよいと思います。

第2分科会発表

テーマは、「魅力を活かすまちづくり」です。はじめに、奈良市の魅力は何かという
ことを話し合い、自然と歴史が、奈良市の最大の魅力だという結論に至りました。様々
な意見も出ましたが、概ね方向性は一致していました。

次に、自然と歴史という魅力を、どのようにして活かしていくことが望ましいかと
いう点について話し合いましたが、様々な提案が出てきました。

まずは、歴史と自然そのものと、それらをつくってきた過去の人たちの思いを知る
必要があるということです。単に歴史や自然だけではなく、昔から奈良市をつくられ
た方々の思いや、その当時の考え方も含めて、伝えていかなければなりません。伝え
方については、子どもたちへの教育や紙芝居、小中学生などにも理解できるような勉
強会などを通して、若い人にも魅力を知ってもらうことが大切だという意見が出まし
た。

そして、魅力を活かし続けるためには、今までつくりあげられてきた魅力を、保存
していかなければなりません。自然や歴史的な建物だけではなく、伝統文化も保護し
ていかなければなりません。保護にあたっては、専門家も含め皆で話し合いながら、
それぞれにふさわしい保護の方法を考えていかなければならないという意見もありま
した。

奈良市内でも、西部では歴史というよりは、日常生活の利便性の良さが活かされた地域であり、東部では、自然の豊かさなどが中心となり、必ずしも魅力を一本化できない点もあるかもしれませんが、やはり奈良市の魅力と言え、自然と歴史と感じられる方が多いと判断し、自然と歴史を魅力と捉えて、それらが活かされるような将来像を考えました。

以上のことから、テーマ別将来像を「時を超えた歴史と自然を守り、活かし、伝えるまち」としました。

第3分科会発表

本分科会では、事務局から「活気あるまちづくり」というテーマが提示されましたが、奈良市を活性化させるのは、何より観光産業の振興がよいと考え、観光に特化して、話し合いを進めてきました。そして「ならティブ・奈良～観光ビジネスモデルの創造～」というテーマ別将来像を設定しました。「ならティブ」というのは、奈良市の物語を伝えるという意味です。奈良市には本物がたくさんあり、それにまつわる多くの物語があります。これらが個々に存在するだけでは、有効には活用できません。これらを、1つの物語としてまとめ、観光に利用していくことが大切だと考えました。

そのためにもまずは、観光ツーリズムのプランをつくる組織をつくってはいかがでしょうか。その組織では、専門家が、散り散りになっている物語を1つにまとめてプランし、商品化していけばよいと思います。専門家は、外部から呼び寄せるのではなく、公募を行い、奈良市で取り組みたいことやアイデアを提案していただいたうえで、ふさわしい人材を決めるとよいと思います。また、ツーリズムのプランは、トップダウンで決めるのではなく、市民からも、例えば喫茶店が開発したスイーツなど、取り組んでいることや取り組みたいと思うことも情報として収集し、それらを組み合わせでプランをつくっていければよいと思います。

その他にも、ガイドの養成が必要だと考えます。現在、奈良市には、奈良まほろばソムリエ検定がありますが、資格を与えるだけではなく、資格を取得した方と連携しながらガイドを養成していけばよいと思います。

情報発信については、ツーリズムプランや店・旅館・行事などの情報を1つのサイトで把握できるようなサイトを運営してはいかがでしょうか。そのサイトについても、情報を一方的に発信するだけではなく、市民から情報が集まってくるようなサイトであればよいと思います。

さらに、「まちなみ形成」、「道路整備」、「技術・工芸大学の設立」など、比較的長い期間をかけて取り組むべきこともあります。

具体的な取り組みの展開方法については、まだ検討中の段階です。

奈良市は、随分昔から観光都市として様々な取り組みを展開されていますが、人口、旅館への宿泊数や修学旅行で訪れる人数が減少しています。

そこで、「人にやさしい観光」や、「世界や若者を主な対象としたインターネットによる情報発信」に取り組むべきだと思います。

第4分科会発表

本分科会は「人をつくるまちづくり」というテーマ、つまり「人」に着目して話し合いを進めてきました。前回の話し合いでは、「人を活かし、育むまちづくり」というテーマ別将来像を設定しました。第5回の第4分科会の概要記録では背景と課題を整理していますが、総合計画の計画期間である平成23年から10年間、またそれ以降の社会の姿を見据えながら、我々はどのようにいけばよいのかを考えました。

社会的な変化として、今後、少子高齢化、税収減少が進むと予測されます。現状における地域課題として、市民の意識が変化し、世代間をつなぐものが欠けていたり、若い人が声をかけあうきっかけがない、子育て世代の参加が少ない、人と人が知りあえる場が必要といった課題があげられました。人づくりのなかで大きな役割を果たす学校では、現場の声が行政に反映されていない、学校教育についてもっと議論が必要といった意見も出されました。また行政としては、歳入不足や、市内で様々な特徴を持つ地域への対応が必要という課題もあがりました。特に子育て環境をよりよくしていくことが大切と言う意見もあがりました。

このような社会背景や課題を踏まえ、本分科会ではテーマ別将来像を「世代を超えて市民が力を出し合い、つながりを育むまち」としました。「世代を超えて」は、子どもから高齢者まで全ての世代を表しています。子どもについても、単に育てる対象としてではなく、積極的にまちづくりの主体として関わってもらいたいと考えています。高齢者についても、勿論、同じことが言えます。「つながりを育む」というのは、人と人、人と地域がつながり、お互いに助け合うという意味を表しています。「育む」というのは、子育てがしやすい、まちをつくるといった意味を込めています。

第5分科会発表

本分科会では、早い段階で概ねの考え方がまとまったため、テーマ別将来像のキーワードをまとめるとともに、他の分科会が考えられているテーマ別将来像との整合性やバランスも考えました。本分科会で考えるテーマ別将来像が、どのような部分で他の分科会のテーマ別将来像と関係しているか確認することも重要だと思います。

「住みやすいまちづくり」のテーマ別将来像は、「持続可能な環境古都・奈良」としました。環境首都は、世界中の都市で目指しており、競争になっていると思いますが、奈良市は「古都」なので、「環境古都」と表現しています。この「古都」であることは、有利になると思います。

また、サブタイトルとして「歴史と未来、都市と田園が共生する奈良」を設定しました。「歴史と未来」は、持続可能性を表しており、過去、現在、未来のつながりが大切だと考えています。「都市と田園」は、奈良市の地理的状況を活かすということを表しています。人工と自然が調和するように、田園地域と都市地域、それぞれの地域の特性を活かしながら地域間交流を図ることで、まち全体の安全性も高まるのではないかと思います。このような将来像を実現させるため、持続可能性と環境共生の尊重を基本方針として掲げ、これに基づき、今後10年間で様々な課題に対処していけば、奈良市は、世界をリードできるような、すばらしい環境古都になると思います。

まず最も重要な取り組みは、コンパクトシティの構築だと考えます。早急に脱自動

車依存から脱しなければなりません。これは、どのまちでも目指すべきことですが、特に奈良市は取り組みが遅れているように思います。しかも奈良市には多くの文化財があるため、先行して取り組むべきです。具体的にはマイカー規制、道路整備、L R Tの整備、大規模ショッピングセンターの規制、市街地の線引きの見直しなどが必要になると思います。また、都市基盤、住宅などに関しては、ある地域では余っているのにも関わらず、ある地域ではつくり続けるという状態を見直さなければならないと思います。

次に各地域の特徴を活かした文化と都市景観形成が必要です。ならまちは歴史的な景観がいまや重要な観光資源となっていますが、それを奈良市の特徴として位置づけ、歴史的なまちなみをつくっていけばよいと思います。また、街路樹が立ち並ぶ道路景観を整備していくという方法もあると思います。看板の見た目が美しくなかったり、まちなみが見苦しいところについては、規制をかけて美しくしていく必要があると思います。地域間交流は食分野においても取り組むべきことはあります。奈良市は農産物も産出しているため、自給自足まではいなくても、できる限り地域内で食物を調達できるようにすれば、食の安全安心や食文化の育成につながると思います。

以上の取り組みを積み重ね、住みやすいまちが形成できればよいと思います。

第6分科会発表

本分科会では「市民と行政とのまちづくり」がテーマとなっています。分科会で様々な意見が出され、財政再建が最も重要という考え方で一致しましたが、財政再建だけではあまりにも夢がないと考え、テーマ別将来像は「行政と市民が協働する健全財政のまちづくり」としました。この将来像のキーワードは、「健全財政」と「協働」の2つです。

現在、国内には約1800の市町村がございますが、黒字の市町村は、おそらく全体の半分もなく、多くの市町村が財政不足で困っています。これらの市町村は、放漫財政で好き勝手に財政運営をして赤字になったわけではありません。以前は景気が悪化すると、国が国税の減税、補正予算で公共事業を行っていましたが、ある時期から、市町村がその半分を負担するよう求め、地方の税金を減らしたり、借金をさせたりしたため、否応なしに市町村の財政が悪化したのです。決定的なのは小泉首相の三位一体改革で、全ての地方公共団体の財政が悪化しました。昔は行政が財政破綻することはありませんでした。夕張市も炭鉱産業から観光産業へ移行させるために、一生懸命努力すればするほど、借金がかさんでしまったのです。

それでは、なぜ健全財政が必要かといえば、将来を担う人たちが伸び伸びと暮らせるような施策を行っていかねばならないからです。第1分科会から第5分科会までが検討されてきた取り組みを行うためにも、財政が健全でなければなりません。

また、健全財政だけでは夢がないので、「行政と市民の協働」という考え方を盛り込んでいます。これは既に条例ができていますが、市民・公益活動団体・事業者・学校・市の5つが対等な立場で互いの特性を尊重し、認め合い、ともに公益活動を行っていくことが重要です。施策を与えられるのではなく、ともに協力しあい、奈良市をつくりあげていくことが大切です。企画から事業の実施、検証にいたるまで、様々な主体が協働して取り組むことが求められると思います。

第8回会議におけるテーマ別将来像の発表について、事務局（企画政策課 引野）から説明。

○第8回会議におけるテーマ別将来像の発表について：

1 分科会当たりの発表時間は10分間。

事務局が、テーマ別将来像の骨子を整理した発表用パワーポイントを用意する。第7回会議で、事務局が用意するパワーポイントの構成を説明する予定。なお、分科会で発表用のパワーポイントを作成していただいても構わない。

4. 「奈良市全体の将来像」を考えるためのキーワードについて（事務局説明）

「奈良市全体の将来像」を考えるためのキーワード、及び提案書における奈良市全体の将来像の位置づけについて、事務局（企画政策課 奥田）がパワーポイントを用いて説明。

⇒ <会議資料：①「奈良市全体の将来像」を考えるためのキーワードについて（パワーポイント資料）>参照。

【説明の概要】

○説明にあたって：

第7回会議時に、奈良市全体の将来像をご検討いただく予定になっているが、そのときに参考となるキーワードを説明したい。

○各分科会で考えたテーマ別将来像：

今回、各分科会で検討していただいたテーマ別将来像も、奈良市全体の将来像に包含される内容だと、お考えいただきたい。

○奈良市次期総合計画策定基礎調査（アンケート調査）結果：

平成20年度に、奈良市次期総合計画策定基礎調査として、18歳以上の市民と中学生を対象にアンケート調査を行った。この調査結果についても、奈良市全体の将来像を検討していただくうえで参考にしていきたい。

この調査では、奈良市の将来像について「奈良市がどのような市になることが望ましいか」という設問を設け、回答者に14の選択肢から3つ以内を選んでもらった。

14の選択肢は、パワーポイントのグラフで示している通りである。18歳以上の市民と中学生の回答結果を上下二段にそれぞれ分けて整理している。

また、18歳以上の市民を対象とした調査については、10歳毎で上位5位を表に整理している。なおこの表での「10歳代」は、18歳・19歳を指す。表を見ると、「1. 歴史都市」や「7. 安全・安心な都市」、「4. 観光都市」が上位を占めている。

○奈良市都市経営戦略会議『奈良市次期総合計画策定の方針に関する報告書』：

奈良市都市経営戦略会議から、平成21年3月25日に、『奈良市次期総合計画策定の方針に関する報告書』をいただいた。この報告書のなかで、「奈良市の目指すべき新たな都市像を考えるにあたり重要になるキーワード」が19個提示されている。このキーワードは、「奈良の魅力を前面に打ち出し、アピールするためのキーワード」8個、「奈良市が取り組むべき方向性を示すキーワード」9個、「市民を主眼に置いた市政運営のキーワード」2個の3種に区分されている。

○近隣市・同格都市の将来都市像：

近隣市（生駒市、大和郡山市、天理市、木津川市）、近畿圏の中核市（高槻市、東

大阪市、姫路市、西宮市、和歌山市)、近畿圏に関わらず人口規模がほぼ等しい中核市(旭川市、長野市、豊橋市、岡崎市、宮崎市)の将来都市像を整理している。

○これまでの奈良市総合計画の将来都市像：

第1次から第3次(現行計画)までの、本市の総合計画の将来都市像を整理している。

○その他参考資料について：

参考資料「市民政策アドバイザーへのアンケート(平成21年7月実施)」の「これからの奈良市がめざすべき姿(都市の将来像について)」集計結果についても、参考にさせていただきたい。

○提案書における、奈良市全体の将来像の位置づけについて：

第4回会議で事務局から説明した「提案書の構成(案)」と同じものである。

各分科会が発表したテーマ別将来像は、「(2)テーマ別将来像」に掲載する予定である。

次回、委員の皆様には、提案書の「(3)奈良市全体の将来像」についてご検討いただく。なお、(3)の「①奈良市全体の将来像につながるキーワード」については、先ほど説明したアンケート調査結果等のキーワードを整理して記載する予定である。

○第7回会議で、奈良市全体の将来像を検討するにあたって：

第7回会議までに、まずは各委員に、本日お配りした「奈良市全体の将来像記入用紙」に、奈良市全体の将来像とそれを考えた理由を記入していただき、事務局までご提出いただきたい。ご提出いただいたものは、事務局が整理し、次回の会議資料として配布する。次回会議では、その資料を踏まえながら、各分科会で奈良市全体の将来像を考え、発表していただいた後、意見交換を通して、まとめあげたいと思う。

5. 市民会議代表・副代表の選出について(事務局説明)

司会(企画政策課 吉村)より説明。

○代表・副代表について：

開催通知とあわせてお送りした集計結果の通り、回答数が過半数を満たなかったため、今回改めて採決したい。採決をする前に、代表・副代表の役割を簡単に説明したい。

○代表・副代表の役割について：

代表・副代表には、第8回会議時に、市全体の将来像を発表していただく。また提案書を取りまとめる際、若干の調整や内容確認が必要になる可能性がある。そのときは、代表・副代表、各分科会の代表に確認をお願いしたいと考えている。

○提案書の取り扱いについて：

提案書については、基本構想(素案)作成にあたり、将来都市像や基本方向を検討する際の基礎とさせていただきたい。市民会議代表の方に審議会に入っていただくことはないため、テーマ別将来像や奈良市全体の将来像の背景などに、皆様の思いを十分に盛り込んでいただきたいと思います。なお、審議会の開催状況については、委員の皆様にはホームページ等、何らかの方法でお知らせしたいと思う。

○代表・副代表の選出：

採決の時点の会議出席者は44名で、全体の過半数を超えている。過半数が賛同する方法に決定する。

以下のA・B・Cの選択肢のなかで、最も適切だと考えられるもの1つを選び、挙手をし、最も多く挙手のあった方法により、代表・副代表を選出する。

【代表・副代表の選出方法と挙手の結果】

選択肢		挙手の数
A	各分科会の代表6名が話し合い、その中から市民会議の代表・副代表を決める	24名
B	各分科会から市民会議の代表の候補者1名(分科会の代表でない人でも構わない)を選び、その6名が話し合っけて市民会議の代表・副代表を決める。	3名
C	全体場で代表・副代表の候補者の推薦(他薦)があるか確認し、推薦された人達と各分科会の代表が話し合い、その中から市民会議の代表・副代表を決める。	15名

なお、採決後に委員から質問・意見があった。 【凡例】 委員意見、事務局意見

<質疑応答の概要>

- ・立候補という方法はないのか。
- ・市民会議の代表・副代表については、「やりたい」という方より、皆様から「やってもらいたい」と思われる方を選んではいかがかと思う。
- ・他薦だけではなく、自薦の方も含めて、話し合っけてはどうか。
- ・自薦より他薦の方がより適切ではないか。代表・副代表になりたい方については、他の方に、「私がやりたい。」と主張し、その方がふさわしいと判断すれば、他薦という形で推薦してもらえと思う。
- ・やりたいという方がいるのではないか。そのような方に代表・副代表になってもらった方がよいと思う。
- ・今、代表・副代表になりたい方に挙手してもらい、挙手した方がいれば、その方に代表あるいは副代表になっていただく方がよいと思う。
- ・A、B、Cのいずれかを選んでしまった後に、選ぶ方法を変更するのはよくない。

○代表・副代表の選出方法の決定：

Aがもっとも多く、出席者の過半数を占めたため、Aの選出方法に決定。

次回の会議開始前に、各分科会の代表者が集まり、話し合っけて、代表・副代表を決定する。

6. 閉会

○会議閉会にあたって：

- ・司会(企画政策課 吉村)から、次回開催予定日、「ふりかえりシート」の記入・提出

期限[平成 22 年 2 月 10 日(水)]を連絡。

【次回開催予定】

- ・日時：平成 22 年 2 月 19 日（金）午後 7 時～
- ・場所：奈良市役所 中央棟 6 階 正庁

第1分科会
生きやすいまちづくり

【参加者】**委員**井上 雅由、木村 宥子、熊野 磯一、本間 香貴 [田中 浩、吉住 秀]
TF西上 ありさ

いつまでも、子や孫が笑顔で暮らせるまち

背景

- 将来にわたって幸せになる社会
- 弱者も幸せに生きられる社会



- 平和をベースに世界とつながるネットワークづくり
- 奈良を育て、人を育てる
- 平和をキーワードにしたつながりづくり



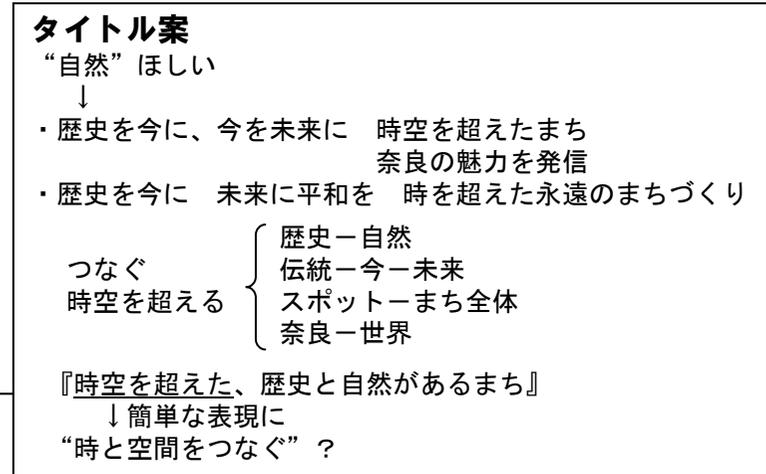
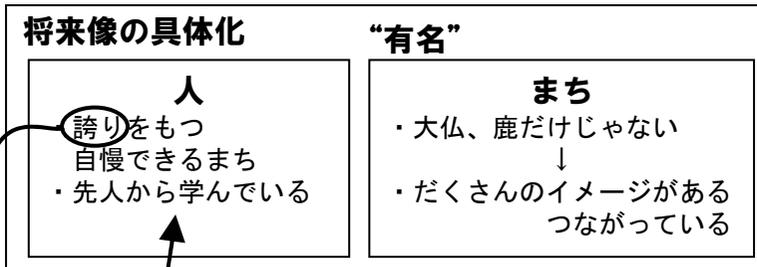
- 今後のアクションにつながる何かを残したい
- 政策や事業に、市民が関わる仕組みづくり → 生きやすさにつながる
- 身近に市民の代表がいる市政に参加できる仕組みが必要
- もっと多様な人に参加してもらい、計画づくりを考える
// 計画を実行する



- 多様性のある教育
- 弱者に優しい医療福祉
- 命を大切にする子育て環境
- 一生元気に働ける環境

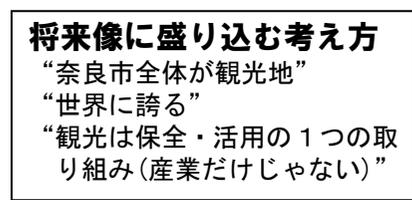
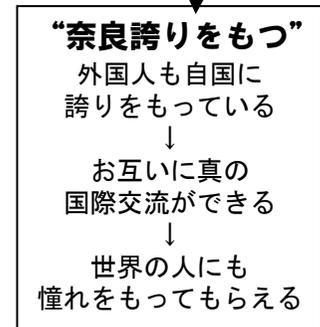
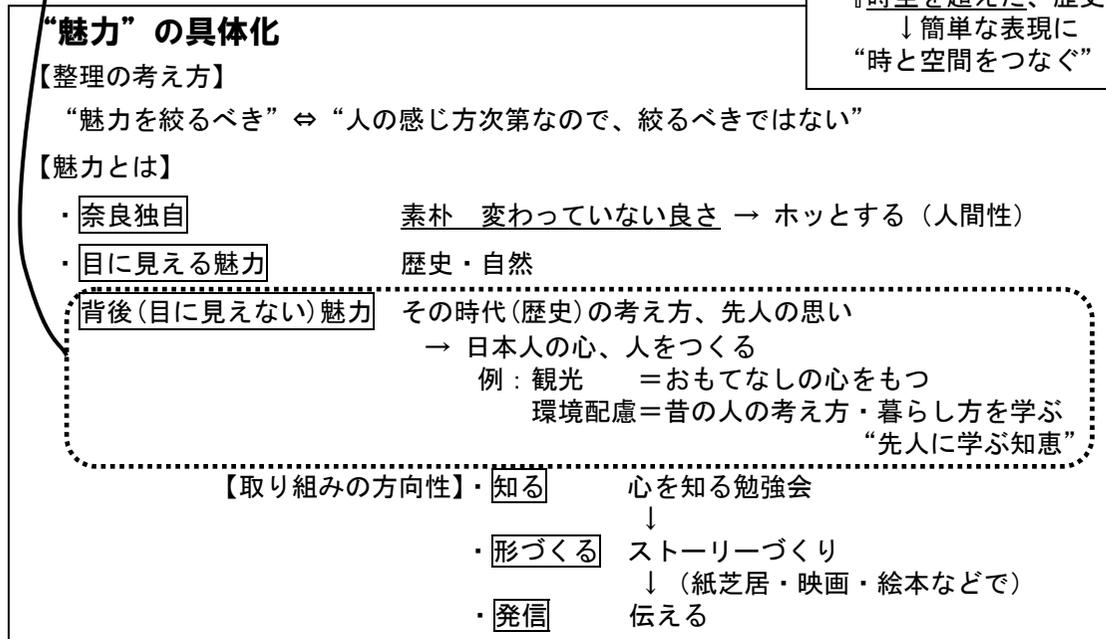
第2分科会 魅力を活かすまちづくり

【参加者】委員 榎本 正範、小西 完治、澤崎 嘉造、谷 幸三、中川 徹、橋本 光男、春田 稔、山本 善徳
[上野 登統、濱 朝子] TF 桐山 法子



“誇り”を
もつと…
(将来像の発展)

将来像への
つながり



第3分科会 活気のあるまちづくり

【参加者】**委員**赤尾 隆、阿部 智子、佐藤 正幸、新堂 順規、長谷川 庸司、畑中 忠司、松森 重博、
吉田 俊夫、寮 美千子 [友田 達郎] **TF**岡田 実成

提案書の修正点

- ・奈良をはっきりいれる！
- ・自然の強調
- ・言葉の統一 歴史遺産に統一
- ・やること！
実行するのはプロ集団と
草の根バックアップ
- ・どこから進めるかが大事
Step Work
- ・Schedule Planが必要では？
- ・踏みこんだ Action Plan を！
- ・団体等がうまくネットされていない
- ・組織の連携 → 実行力
プロ

テーマのネーミング

イメージ戦略

- ・環境に優しいエコ観光
 - ・人に優しい旅・観光
 - ・祈りの奈良
若者をひきつけるイメージ
 - ・はじまりの奈良
 - ・ふれあいの鹿！
- もう少し盛り込めないか！

「ならティブ・奈良」 —観光ビジネスモデルの創造—

は承認

・世界遺産の整理づけ
連携方針がないのでは！

・奈良市に動いてもらう
プランに！

問題

- ・奈良市と奈良県の
二重構造

進めていけるか！

Action Plan としていくためには！

ベースづくり

- ・まちなみづくり
- ・エコのまちづくり

全体のテーマ
PLAN へ

発信

- ・若者＝インターネット情報重要
- ・外国向け発信 WEB

豊かなプログラム

- ・能楽堂等を活かせ！
- ・町家貸し！ → 小さな宿
町屋でゲストハウス
- ・奈良プログラムの構築
能・狂言等
- ・**カフェプラン** サイト
- ・奈良を世界遺産のハブに

**プロ+市民
市民との結合による
プログラムの組み立て**

**このような市民会議
みたいな組織の常態化**

**これが本当に総合計画に
反映されるの？**

第4分科会 人をつくるまちづくり

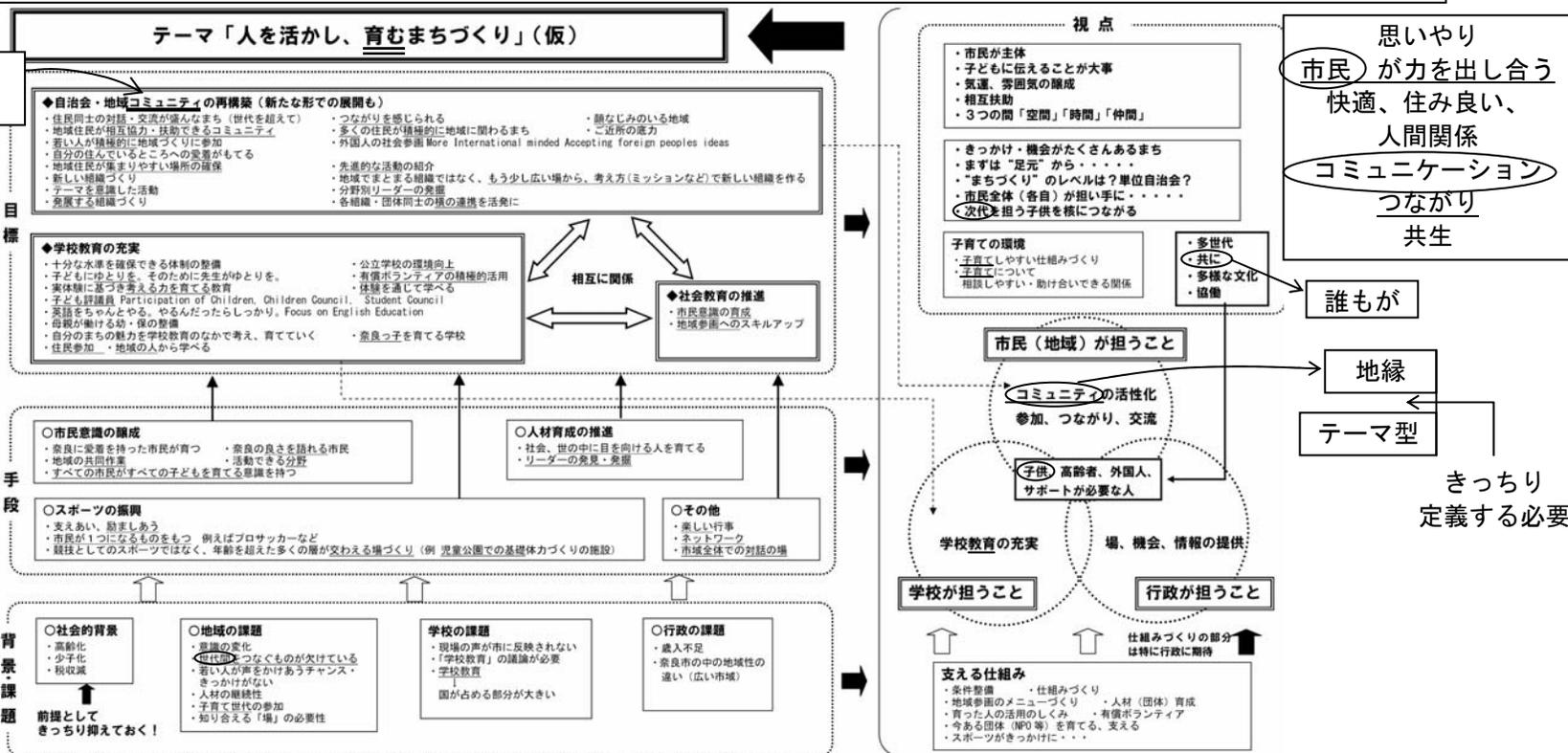
【参加者】委員 岡本 胤継、奥村 麻希子、北 良夫、小島 道子、笹部 和男、高松 典正、宮本 郁江、森口 哲也、山本 素世 [アダルシュ シャルマ] TF 醍醐 孝典

テーマ別将来像 “人を活かし、育むまちづくり”

- 市民が力を出し合い、育むまちづくり
- 市民が力を出し合い、支え合う社会
- 市民が力を出し合い、つながりを育むまち
- あらゆる世代が、つながりを育むまち
- 世代を超えて、つながりを育むまち
- 世代を超えて、市民が力を出し合い、つながりを育むまち

人づくり？
人づくり } 視点が弱い？
教育 }

14



第5分科会 住みやすいまちづくり

【参加者】委員 北浦 由香、北野 剛人、サマン ペレラ、四反田 喬典、田北 ますみ、反田 博俊、中西 輝、濱 恵介、松永 洋介 TF 山崎 亮

《第5分科会が考えるテーマ別将来像》

持続可能な環境古都・奈良 Sustainable & Historical Eco-Capital, Nara

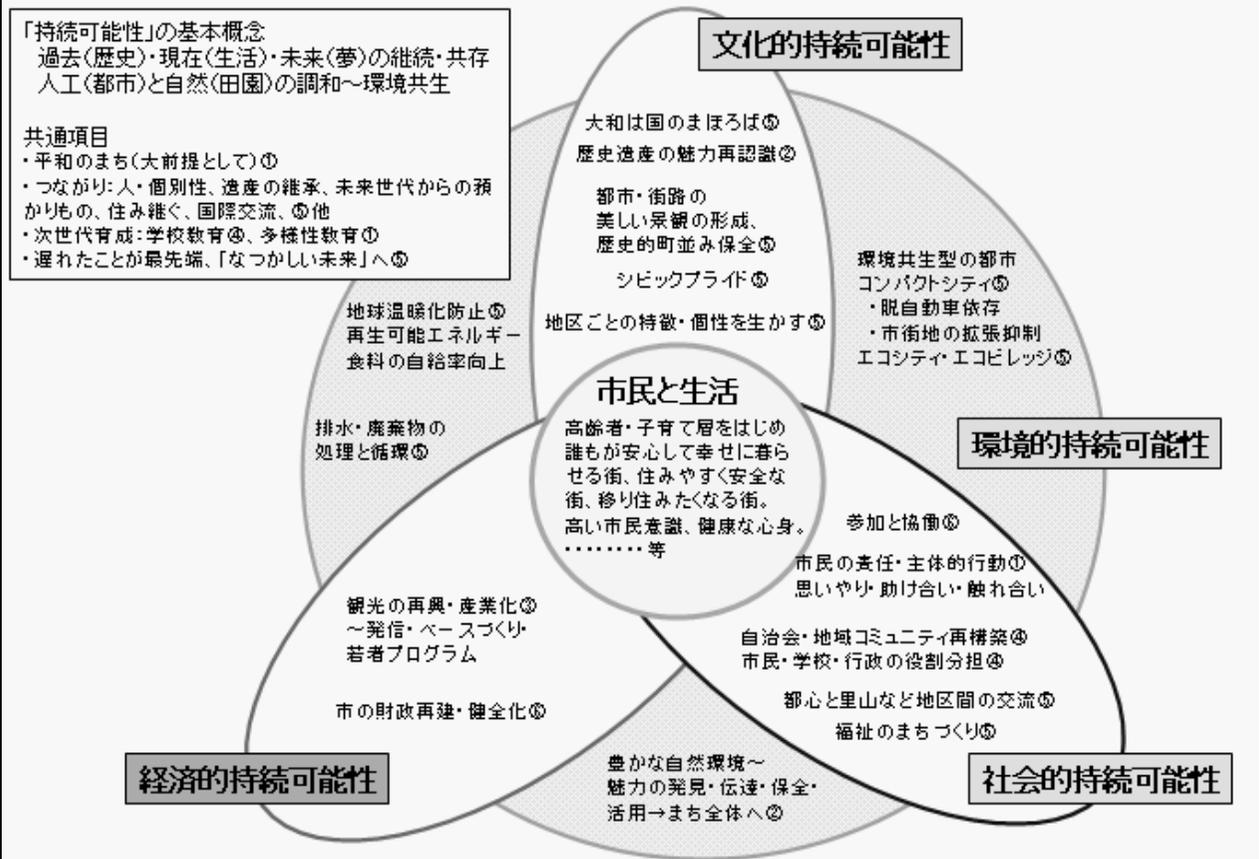
～歴史と未来、都市と田園が共生する奈良～

過去・現在・未来の連続性「持続可能性」と人工と自然の調和「環境共生」を尊重することから見えてくる諸課題の解決を目指す。

「持続可能な環境古都・奈良」は、奈良市全体の将来像にできるのではないかな？

15

奈良市の将来都市像(案)「持続可能な環境古都・奈良」の概念図 (○内数字は分科会番号)



奈良市の将来都市像へ向けて、第5分科会の議論を基礎に、他分科会の主要提案・個人意見を含め模式化

第6分科会 市民と行政とのまちづくり

【参加者】**委員**武村 俊宏、多田 充朗、田中 保夫、
村田 勝彦、元島 満義、渡邊 新一
〔植田 正博〕
TF六本木 晃夫

これまでの議論を「テーマ別将来像用紙」にとりまとめた以下の資料をもとに、キャッチフレーズと現状と背景を確認し、「将来の姿」について意見交換した。

市民が主役なので
「市民と行政」に

「協働」が健全財政の目的、方法にならないように注意が必要

①【タイトル（テーマ別将来像）】

行政と市民が協働する健全財政のまちづくり

最新情報にしないと
リアリティがない

②【テーマ別将来像を考えた理由（現状と課題）】

奈良市は、あらゆる債務の合計が平成16年度末時点で3,309億円あるといわれており、厳しい財政状況にある。私たちは、次代を担う子どもたちが、家族や地域と交流し、のびのびと遊ぶことができる環境を整えたいと願っても実現がままならないことなどをはじめとする状況に、大きな危機を感じている。行政にあっては、行財政改革大綱（平成16年策定、18年2月改訂）に基づいて、財政の健全化を強力に進める必要がある。

しかし、その具体化の可能性を考えてみると、市がありそうな行政が、民間企業の視点をもって取り組んで行くことには多くの難問があるように思われる。

このため、行政に市民（民間）感覚を浸透させていく意味からも“行政と市民の協働”が必要不可欠であり、両者が深い絆で結ばれる関係をつくるためには、「行政」と「市民」を対立的に区分していることも再考していく必要がある。

また、市民においては、要求・批判・評論を繰り返すのではなく、自らの幸せと公共の利益を真剣に考えていく必要がある。

このようにみえてくると、定数を含む市議会のあり方も見直す必要の時期にあると考えられ、民間企業が自らの事業目的を追求しつつ奈良市のまちづくりにどのように貢献するかを含めて、あらゆる主体が奈良市の明るい未来を切り拓こうとする状況をつくる必要がある。

要するに「職員の意識改革」が問題なので、それが必要と改める

市民と行政を対立軸に置かないことが主旨なので「相互理解」が適切

③【このテーマに関して、私たちの考える奈良市の将来像】

繰り返されてうるさいので、4つの論点で箇条書きにするなど、読みやすくする

第6分科会は、テーマが抽象的なため、「将来像」は描きにくい。市民参画・協働によるまちづくり条例の主旨、目的が一番近いのではないかと…